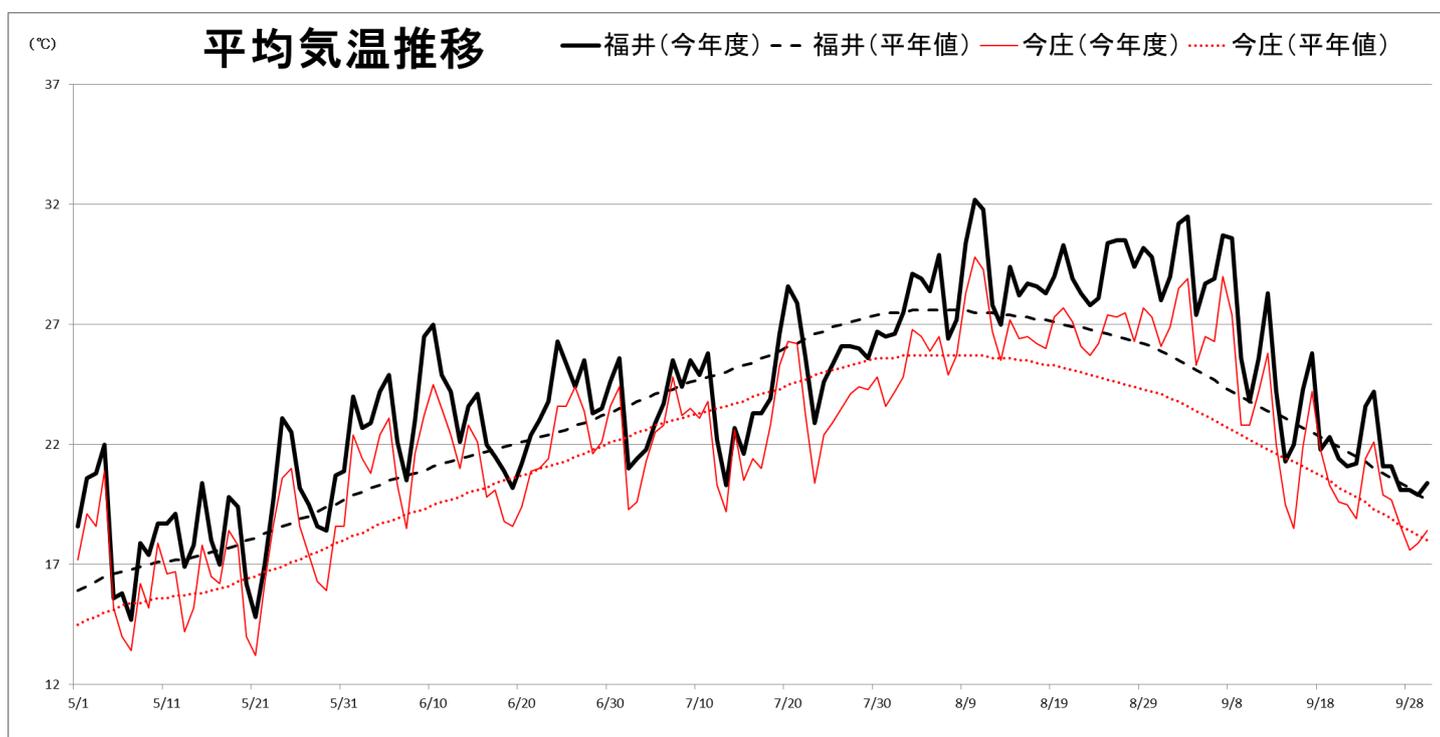


気象概況と生育概要

5月6月は高温傾向で、6月1～3半旬はかなり高温となり「ワキ」の発生は例年同様多く、生育の妨げとなりました。適度な降雨もあり昨年ほどの藻の発生はなかったものの一部でアカウキグサにより苗が枯死する被害がありました。7月は、ほぼ毎日降雨があり温度条件も重なって、いもち病の発生が各地で見られました。また長雨の影響により軟弱徒長し、コシヒカリの稈長が平年より7cm程度長くなりました。8月1日に梅雨明けして以降は高温多照となり平年に比べ平均気温が2℃ほど高く、コシヒカリ・日本晴の登熟を早めるとともに、高温登熟により乳白米となり品質低下を招きました。全般に虫害が多い年であり、カメムシによる斑点米、イナゴやコブノメイガによる葉の食害が目立ちました。



2020年産米 生育調査圃場 脱穀データ

品種	2019年				2020年			
	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	網下量 (kg/10a)	網下率 (%)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	網下量 (kg/10a)	網下率 (%)
ハナエチゼン	546	515	31	5.7%	632	613	19	3.0%
コシヒカリ	532	474	58	10.9%	541	491	50	9.2%
日本晴	553	524	29	5.2%	607	551	56	9.2%

本年産米品質概況



倉前検査データ参照：2020年10月7日現在

ハナエチゼン

上位等級比率	平地地			山間地		
	1等	2等	3等	1等	2等	3等
	75.9%	22.3%	1.8%	73.2%	24.5%	2.3%
格落ち理由						

暖冬によりカメムシの越冬成虫が多いことに加え、5月以降も高温で推移したため水田内の雑草が多く、カメムシ被害を助長し、斑点米の発生が増加しました。また登熟後半の高温多日照により急激に糊水分が低下したため、刈り遅れや水不足の圃場では立毛中に胴割米が発生しました。

コシヒカリ

上位等級比率	平地地			山間地		
	1等	2等	3等	1等	2等	3等
	33.1%	63.0%	3.9%	84.3%	15.7%	0.0%
格落ち理由						

登熟初中期が記録的な高温で推移し、平地地では高温障害によりデンプンの詰まりが粗くなる乳白米が多発生しました。更に葉色が薄い圃場では、登熟中後期に栄養不足となり基部未熟米・背白米となりました。

日本晴

上位等級比率	平地地			山間地		
	1等	2等	3等	1等	2等	3等
	51.1%	47.0%	2.0%	64.5%	35.5%	0.0%
格落ち理由						

コシヒカリと同様に高温障害による乳白米や栄養凋落による基部未熟米が多発しましたが生産者ごとに品質のバラつきがあり、水管理等の差が考えられます。カメムシの越冬成虫が多く、大型のクモヘリカメムシ等による斑点米の被害が拡大しました。